

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	86人	算数	86人	理科	86人
第5学年	国語	68人	算数	68人	理科	68人

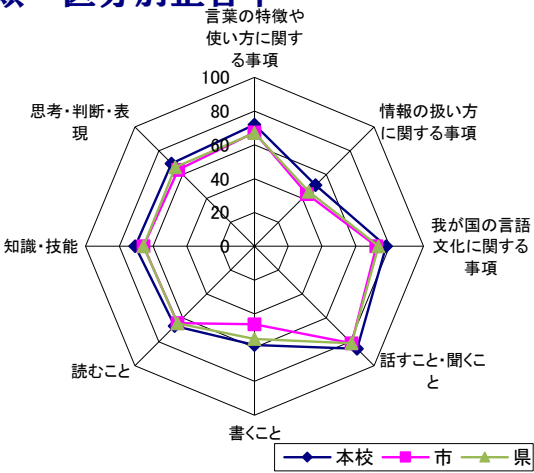
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.0	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	51.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	77.9	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	85.8	81.2	81.2
	書くこと	58.4	46.2	54.9
	読むこと	66.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	70.6	65.7	65.7
	思考・判断・表現	69.4	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

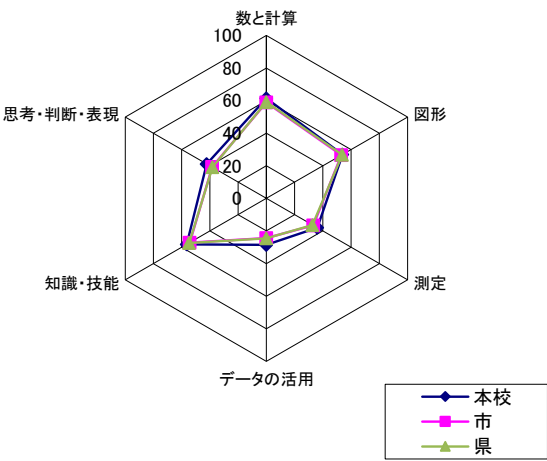
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は72.0%で、県よりも4.9ポイント高くなっている。 ○主語と述語を組み合わせとして選ぶ問題の正答率は80.2%で、県よりも12.7ポイント高い。 ●ローマ字の読み方の問題の正答率は50.0%で、県よりも5.0ポイント低い。	・文中における主語と述語との関係をとらえさせるために、日々の授業の中で主語と述語を意識した短文づくりに取り組ませ、定着を図る。 ・ローマ字での文づくりや一人一台端末を使用したタイピング等にも取り組ませ、更に定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	・領域の正答率は51.2%で、県よりも5.5ポイント高くなっている。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかを問う問題の正答率は、51.2%で、県よりも5.5ポイント高い。	・日々の学習で国語辞典を使う機会を増やし、適切な方法で調べ、一つの見出し語に複数の意味があることに気付かせるとともに、文に合った意味を選択することができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	・領域の正答率は77.9%で、県よりも4.5ポイント高くなっている。 ○漢字が、へんやつくりを正しく組み合わせで既習の漢字をつくることができるかについて理解しているかを問う問題の正答率は、77.9%で、県より4.5ポイント高い。	・漢字の学習の際に、部首に触れ、へんやつくり等の名称を確かめることで、より一層の定着を図る。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は85.8%で、県よりも4.6ポイント高くなっている。 ○司会者の話し方の工夫を捉えることができるかを問う問題の正答率が83.7%で、県よりも6.0ポイント高い。 ○参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言に適する内容を書く問題の正答率は88.4%で、県よりも8.4ポイント高い。	・説明文や物語文の学習において、話の要点を探して要約する活動に取り組ませ、考えをまとめる力を高められるようにする。 ・学級活動等の話し合い活動の場でも、役割を決めて話合う機会を設け、友達の意見を聞いて、考えをまとめながら話合うことができるようにする。
書くこと	・領域の正答率は、58.4%で、県よりも3.5ポイント高くなっている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができるかを問う問題では、正答率は64.0%で、県よりも7.8ポイント高くなっている。	・短文づくりや条件に合わせて文章を書く学習を繰り返し行っていく。 ・お礼の手紙や行事の感想等に取り組ませ、書く力を更に高められるようにする。
読むこと	・領域等の正答率は66.7%で、県よりも2.2ポイント高くなっている。 ○場面の様子について、叙述を基に主人公の気持ちを捉えることができるかを問う問題の正答率は、43.0%で、県よりも6.2ポイント高い。 ●場面の様子について、叙述を基に登場人物の行動の理由の説明を問う問題では、正答率は70.9%で、県よりも2.8ポイント低い。	・説明文では、段落の内容を捉えることができるように、中心となる言葉を用いて小見出しをつけたり、文章全体を要約したりする学習を繰り返し行っていく。 ・物語文では、場面ごとに登場人物の気持ちを考えることで、内容を捉える力を高める。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.4	58.9	59.2
	図形	53.9	53.0	53.7
	測定	36.1	33.1	32.6
	データの活用	28.5	24.4	24.6
観点	知識・技能	56.5	54.3	54.7
	思考・判断・表現	42.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

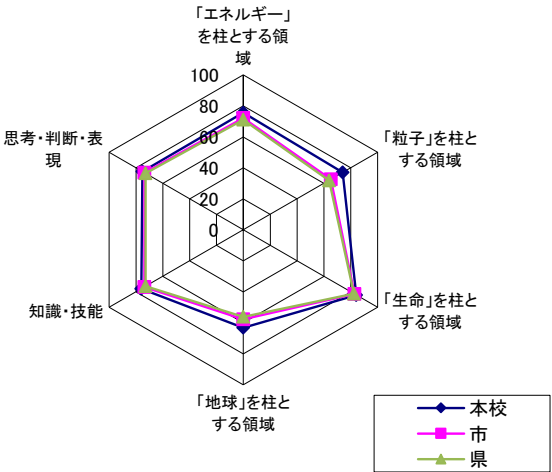
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、61.4%で、県よりも2.2ポイントより高くなっている。 ○小数を、整数と同じ数直線の中に位置づけて考える問題の正答率は40.7%で、県よりも12.8ポイント高い。 ○余りを切り上げて処理し、それについて説明する問題の正答率は70.9%で、県よりも10.3ポイント高い。 ●整数－小数第一位の計算をする問題の正答率は50.0%で、県よりも7.1ポイント低い。 ●乗法の計算の仕方を理解し、説明する問題の正答率は11.6%で、県と同程度だが、数と計算領域の中で課題があるといえる。	・位をそろえる、繰り下がりの計算の仕方など、繰り返し取り組ませることで、正確に計算ができるようにする。 ・かけ算をはじめ、四則に関して成り立つ性質について、なぜそれらの性質が成り立つのかを考えさせたり理由を言葉で説明させたりする授業を展開し、計算の原理をつかませるとともに必要に応じて活用できるようにしていく。
図形	・領域の正答率は、53.9%で、県よりも0.2ポイント高くなっている。 ○二等辺三角形の性質を理解する問題の正答率は70.9%で、県と同程度である。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する問題の正答率は36.1%で、県と同程度だが、図形は県と同程度だが、36.1%に近い。	・半径、直径などの言葉の意味を理解させるために、繰り返し練習問題に取り組ませ、定着を図る。 ・作図の際、コンパスの使い方を再度確認し、繰り返し取り組ませることで、正確に図形を描くことができるようにする。また、半径や直径が無数にあることに気付かせたり、コンパスは円をかくだけでなく、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具であることを理解させたりしていく。
測定	・領域の正答率は、36.1%で、県とほぼ同程度である。 ○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題では、正答率が54.7%で、県より10.8ポイント高い。 ●はかりの目盛りを読みとり重さを答える問題では、正答率が22.1%で、県と同程度だが、測定領域の中で課題があるといえる。	・単位を機械的に暗記させるのではなく、単位の意味や原理を理解させ、繰り返し取り組ませることでさらなる定着を図る。 ・身の回りのものの重さを測定する活動を充実させ、量感を伴って理解させる活動を取り入れる。
データの活用	・領域の正答率は、28.5%で、県よりも3.9ポイント高くなっている。 ○適切な棒グラフから、示された値を読み取る問題の正答率は51.2%で、県と同程度である。 ●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題の正答率は17.4%で、県より7.6ポイント高いが、全問題の中で無回答率が最も高く、37.2%となっている。	・教科書の基礎的問題を使って、「データから項目ごとに読み取る」「項目を組み合わせて考える」という一連の考え方の定着を図れるようにする。 ・考えたことやその理由について、文章に表したり、発表したりする場面を授業の中で多く設定し、算数への苦手意識を軽減していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.6	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	74.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	84.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	63.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	76.0	73.8	72.8
	思考・判断・表現	75.3	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は75.6%で、県よりも4.6ポイント高い。 ○風の強さとものの動きの関係について答える問題の正答率は67.4%で、県よりも8.4ポイント高い。 ○電気を通すものを選ぶ問題の正答率は91.9%と、県よりも8.6ポイント高い。 ●磁石の極の性質を適切な語句を使って表現する	・体験をもとにした活動を重視し、気付いたことや相違点について、自分の言葉でまとめや振り返りを行わせるようにすることで、理科的な言葉で表現する力を高めていく。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は74.0%で、県よりも0.1ポイント高い。 ○形を変えても、ものの重さは変わらないことについて問う問題の正答率は91.9%で、県よりも5.2ポイント高い。 ●体積が同じでも、ものの種類によって重さが違うことを説明する問題の正答率は37.2%と低くなっている。	・理科的な用語とその意味を押さえ、実験の考察やまとめなどの文章で表現する際に、進んで使えるように繰り返し指導していく。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は84.1%で、県よりも1.7ポイント高い。 ○虫眼鏡の正しい使い方を選ぶ問題の正答率は62.8%で、県よりも8.1ポイント高い。 ●ダンゴムシが昆虫の仲間ではない理由を答える問題の正答率は74.4%で、県や市と同程度であるが、「生命」の領域の中では低い。	・実際に観察することで、昆虫の定義を理解することで、他の生き物と照らし合わせて考えられるようにする。 ・図鑑を利用したり、一人一台端末で調べさせたりして、興味関心を高める。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は63.2%で、県よりも7.0ポイント高い。 ○かげのできる向きについて選ぶ問題の正答率は81.4ポイントで、県よりも10.8ポイント高い。 ●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題の正答率は50.0%で県よりも6.3ポイント高いが、全体の半数しか正答できていない。 ●太陽が動く方位を選ぶ問題の正答率は58.1%で、県と同程度である。	・観察に使う道具の使い方や使用の目的を押さえ、観察の前に練習するなどして、正しく使えるように支援する。また、日常生活の中で使用する場面を設けるなどして、知識がより深まるようにする。 ・実験や観察の結果を図や表などで表すなどして、様々な表現方法に親しませ、図から分かることを適切に読み取ることができるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童の割合は83.7%であり、県よりも7.9ポイント高い。また、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的に回答した児童の割合は87.2%であり、県よりも8.9ポイント高い。授業での話し合い活動が効果的に行われ、それによって児童の興味・関心が高まり、自ら進んで学習に取り組む姿勢につながっている。「雀央っ子ががんばること」の目標である「話し合い活動では、進んで自分の意見を伝える」という力が付いてきている。

○「家で自分で計画を立てて勉強している」の質問に肯定的に回答した児童の割合は84.9%であり、県よりも8.8ポイント高い。また、「家で学校の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は79.1%であり、県よりも12.1ポイント高い。さらに、「家で学校の予習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は70.9%であり、県よりも10.3ポイント高い。学校で学習したことを家庭学習で復習したり、今後の学習を見通して予習したりしていることが分かる。

○「1か月に、何さくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)。」の質問に、「5冊以上読んでいます。」と回答した児童の割合は54.7%であり、県よりも7.2ポイント高い。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は67.4%と、県と同程度であり、パソコンや本を学習に活用する習慣が身に付いている。

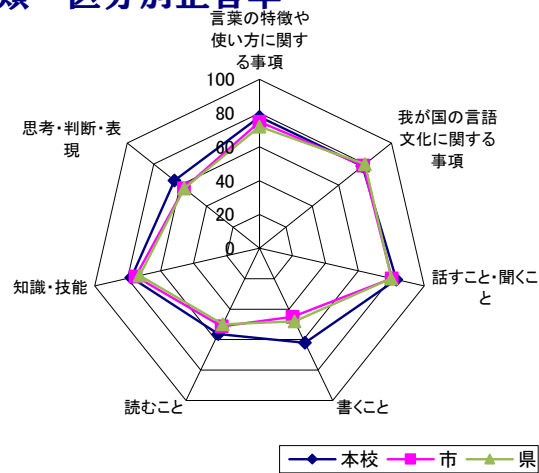
○「自分には、よいところがあると思う」の質問に肯定的に回答した児童の割合は93.1%であり、県よりも9.3ポイント高い。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の質問に肯定的に回答した児童の割合は95.4%であり、県と同程度であった。自分のよさを理解し、他者に関わっていかうとする意欲が見られる。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の質問に肯定的に回答した児童の割合は64.0%であり、県と同程度であるが、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」の質問に肯定的に回答した児童の割合との差は31.4ポイントあり、自分のよさを人のために生かしたいという思いはあるが、役立っているという実感にはつながっていない。学級活動や係活動の充実を図り、役に立つことができたという経験をさせていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.8	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	77.9	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	83.1	80.4	80.0
	書くこと	62.1	45.1	48.0
	読むこと	56.3	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.8	75.2	72.8
	思考・判断・表現	64.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

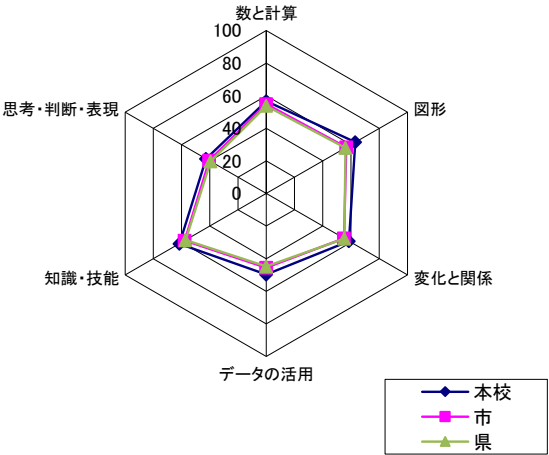
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	・領域の正答率は77.8%で、県よりも5.8ポイント高い。 ○漢字の読みの問題において、「観察」「鏡」のそれぞれの正答率は98.5%で、県と同程度である。 ○漢字の書きの問題において、「兵隊」の、正答率が58.8%で、県より9.6ポイント高くなっており、特に、「約束」は、88.2%で、県よりも17.5ポイントと、かなり高くなっている。 ●連用修飾語の問題については、正答率が14.7%と、県と同程度ではあるが、かなり低い。	・漢字の定着を図った指導を継続してきたことで、成果が出ていると考えられる。今後、正答率が低い漢字を取り上げ、引き続き漢字練習やミニテストなどの取組を進めていく。 ・日常生活の具体的な場面を取り上げたり、説明文や物語文の読解において、文の中において修飾と被修飾の関係を捉えたりして、修飾語をより身近なものとして理解・活用していけるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	●慣用句の意味を理解して正しい使い方を選択する問題の、正答率は77.9%で、県よりも2.0ポイント低い。	・児童が進んで慣用句を調べる機会を設け、正しく慣用句を使った文作りに取り組ませる。 ・慣用句の正しい意味を理解した上で、日常生活の中で意識して使えるようにする。
話すこと・聞くこと	・領域の正答率は83.1%で、県よりも3.1ポイント高い。 ○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら自分の考えをまとめる問題の、正答率は89.7%で、県より6.7ポイント高い。	・「話すこと・聞くこと」を扱う単元において、発表を聞くだけでなく、聞き取ったことをまとめる力や、自分の考えと比較しながら聞き取る力など、育てたい力を明確にして活動に取り組ませることで、さらに聞く力を高めていく。 ・話し合いの授業をする際は、司会の役割を果たしながら話し合ったり、参加者の発言を基に考えをまとめたりすることで話す力を高めていく。
書くこと	・領域の正答率は62.1%で、県よりも14.1ポイントとかなり高い。 ○2段落構成で文章を書く問題では、それぞれの正答率が63.2%で、県よりも17.7ポイントとかなり高くなっている。 ○指定された長さで文章を書く問題の正答率は73.5%で、県よりも16.1ポイントとかなり高くなっている。	・「○文字以内で書く」や「○段落で書く」、事実をもとに自分の考えを書くというような、指定された形での短作文の練習を今後も繰り返し行っていく。 ・内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いて伝えることができるように、他の教科においても機会を捉えて指導する。
読むこと	・領域の正答率は56.3%で、県より6.3ポイント高い。 ○話し合いの様子を読み、文章の内容と合っていることを話している人物を選ぶ問題の正答率は66.2%で、県よりも13.1ポイントとかなり高い。 ○登場人物の気持ちの変化について説明した文の空欄に適する言葉を書く問題の正答率は42.7%で、県よりも8.5ポイント高い。 ●文章の内容を説明した文として適するものを選ぶ問題の正答率は41.2%であるが、無回答率が10.3%と高かった。	・物語文と説明文の読み取り、読書量の確保、朝の学習を通して習熟を図ってきた成果が表れたと考えられる。今後も継続して、丁寧な物語文と説明文の読み取り、読書の推奨、習熟プリントの活用を図っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.7	54.9	53.7
	図形	63.0	56.6	56.1
	変化と関係	58.5	55.1	55.2
	データの活用	49.7	45.5	44.8
観点	知識・技能	61.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	42.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

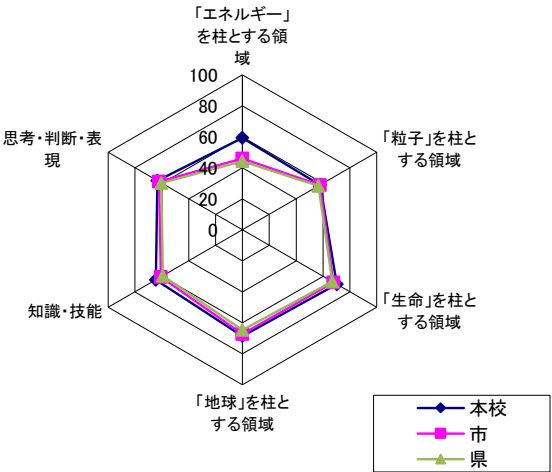
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は56.7%で、県よりも3.0ポイント高い。 ○数直線の見方を分数で読み取り、仮分数で答える問題の正答率は76.5%で、県よりも22.4ポイント高い。 ●小数のしくみを理解しているかの問題の正答率は64.7%で、県よりも4.9ポイント低い。	・練習問題や個別指導を充実させ、わり算、計算のきまり、小数、分数、分配法則などの基礎的な力を引き続き高めていく。 ・整数から小数、分数への数の概念を広げるときに、位取りや具体物を用いて、数の仕組みをイメージできるよう丁寧に指導をする。
図形	・領域の正答率は63.0%で、県よりも6.9ポイント高い。 ○平行四辺形を作図する問題の正答率は60.3%で、県よりも14.6ポイント高い。 ○直方体の面に垂直な辺を答える問題の正答率は67.7%で、県よりも10.1ポイント高い。 ●三角形の角度を理解して答える問題の正答率は、県と同程度であるが、48.5%とやや低い。	・作図の際、再度三角定規やコンパス、分度器の使い方を丁寧に指導し、正確に図形をかけるよう指導を充実させていく。 ・三角定規のそれぞれの角など基本的な事項がしっかりと身に付いているかどうかを授業で確認し、繰り返し類似問題に取り組ませることで定着を図る。
変化と関係	・領域の正答率は58.5%で、県よりも3.3ポイント高い。 ○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題の正答率が85.3%で、県よりも4.9ポイント高い。 ●割合を使った比べ方について説明する問題の正答率は33.8%で、県と同程度であるが、無回答率も10.3%と課題が見られる。	・2つの事柄を比べながら考える力や文章で説明する力を身に付けさせていくために、普段の算数の学習の中で考えたことを言葉にして伝え合う場面を設けていく。
データの活用	・領域の正答率は49.7%で、県よりも4.9ポイント高い。 ○折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題の正答率は64.7%で、県よりも9.0ポイント高い。 ○二次元の表の意味を理解し、傾向を読み取る問題の正答率は52.9%で、県よりも7.5ポイント高い。 ●グラフから正しく変化の様子を読み取る問題の正答率は17.7%と低く、無回答率が27.9%と高い。	・グラフや表の基本的な見方を理解させた上で、問題場面や条件を正しく読み取り、分かったことを文章化できるよう指導する。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	59.3	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	57.9	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	68.6	67.2	64.6
観点	知識・技能	64.5	60.8	59.2
	思考・判断・表現	63.4	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	・領域の正答率は59.3%で、県よりも15.0ポイント高い。 ○乾電池の名称とつなぎ方に関する設問の正答率は70.6%で、県よりも8.3ポイント高い。 ○電流の大きさと向きを問う設問の正答率は57.4%で、県よりも27.2ポイント高い。	・直列や並列についてや電池の向きによって流れる電流の向きが変わることについては、5年「電流と電磁石」の単元の導入で復習することで定着を図る。 ・簡易検流計など道具を用いて実験するなど、体験的に学ぶ機会が少ないことから、上記の機会を増やして学習すること、そしてその様子を絵や図、表などにまとめる機会を設け、仕組みや原理が身に付けられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	・領域の正答率は57.9%で、県と同等である。 ○とじこめた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けられることができるかの設問の正答率は70.6%で、県よりも8.3ポイント高い。 ○空気の温まり方と身の回りの現象を関連付けて理解しているかどうかを問う設問の正答率は83.8%で、県よりも11.7ポイント高い。 ○金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化に関する設問の正答率は92.7%で、県よりも6.0ポイント高い。 ●水を温めると、温められた部分がどう動くかを問う設問の正答率は26.5%で、県よりも6.4ポイント低い。 ●温気と水蒸気の違いについて問う設問の正答率は、70.3%で、県と同等である。	・試験管を温めることでどこから温まるのかを示温インクなどを使って再度温めて確認することで定着を図っていく。 ・水の温まり方の仮説の説明に合った温まり方の図を選ぶ場合の実験の結果を構想できるようにする。 ・湯気は気体であるという誤概念は、強固で転換しにくいとされている。粒子の見方を働かせ、なぜ気体は目に見えないのかを考えたり、状態変化を粒子モデルで考えたりする活動を取り入れることや、目に見えない水蒸気の実在を確かに感じ、湯気との違いを考えられるような実験を複数取り入れることで、湯気は液体であることを実感を伴って理解できるようにする。
「生命」を柱とする領域	・領域の正答率は、70.3%で、県と同等である。 ○夏の植物の成長のグラフについて正しく表したものを選択する設問の正答率は88.2%で、県よりも7.7ポイント高い。 ○季節の順に並べた植物の記録を選ぶ設問の正答率は44.1%で、県よりも6.9ポイント高い。 ○骨と関節の名称を答える設問の正答率は92.7%で、県よりも11.7ポイント高い。 ●季節ごとの動物の活動について理解しているかを問う設問についての正答率は、67.7%で、県よりも、5.9ポイント低い。	・本校の児童は、自然や動物などと触れたり、感じたりする場面や機会が非常に少ない。そのため、理科の学習で校外に出て田んぼや畑、林と触れる機会を設けて、生活実感を伴える体験をさせていく。
「地球」を柱とする領域	・領域の正答率は、68.6%で、県と同等である。 ○気温の測り方として正しいものを選ぶ設問の正答率は72.1%で、県よりも11.8ポイント高い。 ○星の色に違いがあることを理解しているかどうかを問う設問の正答率は64.7%で、県よりも9.0ポイント高い。 ○星の動きと星座の並び方を選ぶ設問の正答率は70.6%で、県よりも7.0ポイント高い。 ●蒸発の名称を答える設問の正答率は44.1%で、県よりも13.5ポイント低い。	・学習したことや用語について確認するとともに、変化の様子など言葉で表現する力をつけさせ、理科で学習したことを実生活の中で、確認させていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は95. 8%と、9割を超えている。また、「家で、学校の授業の予習をしている。」と回答した児童の割合は71. 8%で、県の平均と比べて16. 4ポイント、「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した児童の割合は85. 9%で、県の平均と比べて18. 1ポイント高くなっている。家庭学習が習慣化している児童が多く見られる。今後も、学校と家庭で連携し、家庭学習の習慣化に向けた指導や啓発に努めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童の割合は93. 0%で、県の平均と比べて13. 9ポイント高い。「自分の行動や発言に自信をもっている。」と回答した児童の割合は74. 7%で、県の平均と比べて13ポイント高い。また、「家の人と学校のできごとについて話をしている。」と回答した児童の割合は95. 7%で、県の平均と比べて8. 8ポイント高い。学級での声かけや支援、各家庭での環境など多くの点で児童が安心して生活できている様子が伺える。今後も学校と家庭で連携し、児童の自己肯定感が高まるよう支援していきたい。

○「将来のために大切だと思いますか。」と回答した児童の肯定値は、すべての教科で9割を超えている。どの学習に対しても、将来のためにと前向きに取り組む様子が見られる。今後も学習の見通しをもたせたり、キャリア教育を充実させたりして、児童が前向きに学習に取り組めるよう指導・支援していきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の割合は57. 8%で、県の平均と比べて9. 5ポイント高い。しかし、肯定値は6割以下と低くなっている。授業の際に少人数での発表を行うなど、やり方を多くするなど児童が経験する場を多くし、少しずつ自信をつけさせていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ 学習意欲を高める授業づくりの工夫 ・ 主体的・対話的に学び合う授業づくりの工夫 ・ 学習内容が確実に定着する授業づくりの工夫	・ 児童の学習意欲を高め、児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は県や市よりも高い。 質問紙の調査結果から、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答率が県や市よりも高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問紙の調査結果から、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童が半数以上いる。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」と回答した児童の肯定値は6割以下と低い。	児童の思考を可視化し、論理的思考力や表現力を育むための一人一台端末の活用の工夫	授業で、自分の考えをまとめる時間を確保し、協働学習ソフトや共有機能を活用した学び合いができるようにする。また、自分の考えや調べたことを提示しながら話し合う活動を意図的に位置付けたり、少人数での発表を行ったりするなど児童が経験する場を多くして自信をもたせるようにする。